

【瀬谷区】令和4年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和4年6月8日 13時30分 ～ 14時55分
場 所	瀬谷区役所5階大会議室
出席者	<p>【座 長】花上喜代志議員</p> <p>【議 員： 2名】川口広議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区：24名】植木八千代区長、村上謙介副区長、 松永朋美福祉保健センター長、 伊藤ゆかり福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 安平博災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	令和4年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画
発 言 の 要 旨	<p>○川口議員：コロナの状況については、少しずつ感染者数も減ってきており、多くの方がオミクロン株の影響を認識した上で生活している状況の中、地域のイベントも再開し始めているところではあるが、まず初めに、コロナが少しずつ収まってきているというこの状況の中で、どのようなことを感じているか、伺いたい。</p> <p>○植木区長：4月以降、いろいろな形で地域でもイベントを再開しており、特に、様々な委嘱委員の方については、任期交代のタイミングで活動が何もない年にならないよう活動を再開しているという話を聞いている。また、2年間活動がなかった地域については、活動の継続性をこれからどう求めていくのか、2年前どうやっていたかわからない、という話を聞くこともあるため、そういう部分を区としてもサポートをしながら進めてまいりたい。</p> <p>一方で、感染者数はゼロになったわけではないため、活動再開にあたっては、感染予防の徹底をお願いしているところである。</p> <p>○川口議員：感染者数はまだゼロになったわけではないため、感染予防対策をしっかりと周知した上で、地域の活性化につながるようなイベントを区役所でバックアップしてもらいたい。</p>

次に、停電時の区役所の対策について伺いたい。

○森田総務課長：区庁舎の停電時は、区庁舎地下1階に備えている自家発電装置を稼働させることになる。これにより、区庁舎の総務課及び瀬谷消防署の電源を72時間程度使用することができる。その他の電源としては、ガス式の自家発電機が6台、それ以外の蓄電池が7台ほどあり、こうしたものを予備的に活用しながら、災害時や大規模停電時の対応を行っていく。

○川口議員：停電時に区役所が再稼働できる仕組みを伺ったところだが、一方で今や、スマートフォンを始め電気なくしては日常生活が行えない状況となっていることを踏まえ、今後次のところとして、区民が停電時に不便を被らない対策ができるのではと思っている。今、駅前でも持ち運びができる充電器、例えば瀬谷駅に設置されているものを、お金を払って利用し他の駅に返却する、というものもある。他の自治体では区役所や市役所に設置していたりもするため、検討してもらいたい。

次に、あじさいプラザについて、先日利用した際、リモートを使って配信をしようとしたところ Wi-Fi がつながっていないということがわかった。対策あるいは改善策があるのか伺いたい。

○松岡地域振興課長：ご指摘のとおり、あじさいプラザにおいて Wi-Fi は現状つながっていない状態である。これについては、指定管理者と今後の利用状況を見ながら対応を考えているところである。全市的にみると、市内にある11の区民文化センターの中で、4施設のみが Wi-Fi を導入しているという状況となっている。一方で、市民局所管の地区センターについては、市民局からの配付予算により全施設に Wi-Fi が導入されている。今後、指定管理者との協議を続けるとともに、文化観光局とも情報共有をしながら Wi-Fi の導入について検討してまいりたい。

○川口議員：文化観光局との調整になると思うが、コロナも収まっていない中、リモートを活用して会議や配信をする方はまだまだ多く、これからもその波は続くと考えられるため、Wi-Fi がつながらないというのは不便かと思う。早急に対応できるように取組をお願いしたい。

続いて、「健康せや推進事業」の「ウォーキング等健康推進事業」について、事業の概要を伺いたい。

○吉川福祉保健課長：この事業は、市が委嘱する保健活動推進員と一緒に連携して行う事業である。この保健活動推進員は、昨年4月の市からの委嘱により2年任期となっている。昨年はコロナでなかなか活動ができなか

った中でも、『Go to “ウォーキング”』という、ウォーキングを楽しく安全に行うためのチラシを作成した。今年はこのを活用しながら、地域の中でウォーキングイベント等の活動をしている。また、この保健活動推進員に対しては、地域で活動ができるよう区がウォーキング研修を行っている。

○川口議員：特に対象としている年代層があるのか。

○吉川福祉保健課長：対象は、それぞれの地域で保健活動推進員が企画する内容によるが、一般的には、地域の方に声をかけて行うため、特に年齢の制限はしていないことが多いと認識している。どなたでも参加できるようなイベントにしていることが多い。

○川口議員：「食の安全と動物愛護等推進事業」の「飼い主のいない猫対策支援事業」について、事業の概要を伺いたい。

○笹尾生活衛生課長：市全体としては、不妊去勢手術の推進事業や地域猫活動支援事業がある。その他に瀬谷区独自の取組として、令和3年3月から「瀬谷区飼い主のいない猫対策支援ボランティア」という制度を立ち上げ、このボランティアの力を借りて、飼い主のいない猫の不妊去勢手術や適正飼育管理の取組を進めている。具体的には、地域から飼い主のいない猫の相談を受けた場合、まず区的生活衛生課が現地に行き調査をする。さらに地域の要望等も伺い、それに応じて登録ボランティアを紹介している。地域の要望としては、不妊去勢手術をしたいがなかなか猫が捕まらない、というものが多いため、ボランティアには主に、猫の捕まえ方のレクチャーや、実際に捕まえるお手伝いをしてもらっている。

○川口議員：事業内容にある「ふん尿被害等の軽減」について、具体的な策はあるのか。

○笹尾生活衛生課長：地域猫活動支援事業の中で、単位自治会程度のエリアを地域猫の指定エリアとし、主に自治会町内会にも働きかけを行い、猫に餌をあげる方に、餌やりだけではなくトイレ設置も行ってもらえるような活動を広めることで、地域のふん尿被害を減らす取組を行っている。

○川口議員：「瀬谷魅力発信・名所づくり事業」の「アジサイ周辺の樹木剪定・伐採事業」について、区の花、アジサイをよりよい環境の中で育てていくにあたり、伐採という言葉をなるべく使わない方がありがたいと思っている。

○井田土木事務所副所長：この事業は、楽老南公園、二ツ橋公園、二ツ橋の水辺のアジサイについて、アジサイ近くの高木を主に剪定するというも

のである。

○川口議員：瀬谷区は花博がある街でもあり、植物を大切にするための剪定だというのがわかった。言葉の使い方で印象が変わると感じた。

「まちづくり推進事業」の「旧上瀬谷通信施設のはらっぱへの花畑設置」について、花の見頃が終わった後の花の扱いをどうしているのか伺いたい。

○堀内区政推進課長：この花畑は、昨年11月、上瀬谷小学校及び瀬谷西高校の生徒に、はらっぱに花の種を植えてもらったものが成長して花畑になったもので、今年3月18日から始まった春のはらっぱの開放において、花の迷路として設置し来場者に楽しんでもらった。また、開放の最終日には、花の摘み取りイベントを実施し、来場者が花をすべて持ち帰り自宅の庭等に飾る、という取組を行った。当日はあいにくの雨だったが、100名以上の方にご来場いただき、花摘みイベントを楽しんでもらった。

○川口議員：今回は区民の方に持ち帰ってもらったということだが、もし、花を抜いて捨ててしまうようなことがあれば、瀬谷区内に営業所がある事業者が、花の飼料化・堆肥化の事業をやっているため、循環型社会につながる取組として、経済の循環のためにも検討いただきたい。

続いて、「まちづくり推進事業」の「瀬谷駅周辺の活性化に向けた検討」について、具体的な事業内容について伺いたい。

○堀内区政推進課長：瀬谷駅周辺については、今後の国際園芸博覧会の開催や、将来の上瀬谷の土地利用により、来街者の数や人の流れが大きく変わることが想定される。一方で、住宅情報誌が公開している「住みたい街ランキング 2022 首都圏版」によると、ランキングの1位は横浜駅だが、「横浜駅まで電車で30分以内の家賃相場の安い駅ランキング」を見ると、三ツ境駅が5位に入っており、瀬谷区内の駅は住まいとしてのニーズもあるということがわかる。また来年3月には、相鉄線の東急線への直通運転も開始されると聞いており、区としては、瀬谷区の活性化には、ハード整備だけではなくソフト面の取組も必要と考えており、周辺状況の変化を見据え、地元の住民が主体となってどのような活動ができるのか検討してまいりたい。瀬谷駅には現在、既存の団体として、主に北口広場の駅前の活用や自転車駐輪場の管理運営を行っている「瀬谷駅北口駅前広場活用推進協議会」があるが、この夏以降、この団体と意見交換をする場を設け、瀬谷駅周辺の活性化に向けて議論を進めてまいりたい。また、今後この組織で進めていくのか、あるいは、発展的に新たな組織をつくり進めていくの

か、ということについても検討を進めてまいりたい。

○川口議員：花博以降のことも考え、瀬谷区が住みやすい街として、多くの方の注目を受けているということは、私も実感しているところだが、それと関連して、「広報・広聴連携事業」の「広報事業」について、区から瀬谷区の魅力について、情報発信を積極的に行っていくことが非常に重要だと思っている。その中で、「SNS（ツイッター、インスタグラム、LINE（4月28日から開始））の発信」とあるが、具体的にどのようなものが4月28日から始まったのか教えてもらいたい。

○堀内区政推進課長：横浜市のLINEが18区展開をするという取組により、4月28日正午から、18区でLINEによる区の情報発信がスタートした。「お知らせ」と「観光・イベント」の категорияがあり、区政情報やイベント情報の発信を開始したところである。4月28日の情報配信が始まってすぐ、瀬谷区では、広報よこはま瀬谷区版の5月号、6月号の公開のお知らせ、ワイルドフラワー摘み取りイベントや瀬谷オープンガーデンの開催、マイナンバー特設センターのオープンや区政運営方針など、これまで11件の配信を行っている。

○川口議員：LINEの登録の仕方については、広報よこはま瀬谷区版の中で伝えているという話が以前あったが、私も登録しているものの、瀬谷区を選んで登録ということに手間がかかる印象がある。ご年配の方もLINEを活用している方が非常に多いというデータもある中、多くの方に登録していただくための努力が必要だと思う。例えば、区役所にLINEの登録方法を伝える張り紙を貼る、登録の仕方を説明できる職員を配置する等があれば非常によいと思う。広報よこはま瀬谷区版に掲載するだけではなく、多くの方に多くのやり方で知っていただく努力をしてもらいたい。

○堀内区政推進課長：SNSについては、広報よこはま瀬谷区版に毎月、紙面の隅にはなるが瀬谷区のSNSの紹介をし、登録いただけるよう案内をしている。また、ホームページでも、案内するページを設けている。ただ、なかなかそこまで見ていただけるとは限らないため、より多くの方に登録していただけるよう努めてまいりたい。

○久保議員：地区センターと公会堂のWi-Fiについては、館内どこでも使える状況ではなく、一部のエリアしか使えないのが現状である。ルーターを持ち出して繋いでいる状況もあり、館内どこでも使えるようなWi-Fiが整備されるのが望ましいと考える。

○松岡地域振興課長：ご指摘のとおり、地区センターでも一部のエリアで

はルーターを貸し出す形でやっており、その点で使い勝手が十分かどうかということもある。市民局と調整しながら望ましい形に変えていければと思う。

○久保議員：浸水ハザードマップについて、今回、内水ハザードマップ、高潮ハザードマップ、洪水ハザードマップの3つが統合され、この8月までに全市内で配布されると聞いている。瀬谷区は6月配布かと思うが、どのように配布していくのか、またどのように活用を促していくのか、伺いたい。

○森田総務課長：浸水ハザードマップについては、瀬谷区では6月中旬に全戸配布となる。このマップを見ると、内水の危険地域や洪水の危険地域が一目でわかるようになっており、この地域の皆様においては、しっかり避難行動の準備をしてもらうための啓発資料として、適切に使ってまいりたい。

○久保議員：「健やか瀬谷っ子事業」の「瀬谷区版妊娠・出産・子育てマイカレンダー」について、英語とベトナム語を新たに追加する理由について伺いたい。

○小澤こども家庭支援課長：「瀬谷区版妊娠・出産・子育てマイカレンダー」は、妊娠時に必要となる手続きや、定期健診、教室など、妊娠から出産まで準備することが多くなることから、それをマイカレンダーという形で、個人個人の日程に落とし込めるものをつくった。

一方、外国人の方でも複雑な手続きに対応できるよう、マイカレンダーの英語版を作成するとともに、ベトナムの方の中には英語がほとんどわからない方が多いという状況を踏まえ、ベトナム語版も作成し、この2つの言語に翻訳したカレンダーを適宜渡すことで、滞りなく確認を進めていくためにつくったものである。

○久保議員：「区民活動支援事業」の「国際交流支援事業」について、具体的にどのような事業か伺いたい。瀬谷区には外国人の方に対し様々なサポートをするボランティアがいるが、そのボランティアに対する区の支援を拡充してもらいたいという話も聞いているため、このことも含めて伺いたい。

○森田総務課長：外国人の区民が瀬谷区で快適な生活を送れるよう、様々な工夫をしていかなければならないと考えている。例えばパンフレット類では、ごみの出し方パンフレットを6か国語で作成している。また、防災啓発のリーフレット、日本での災害予防というリーフレットも4か国語で

対応できるようになっている。他に例えば、翻訳アプリの入った端末を窓口に設置するなど、外国人の方とのコミュニケーションがしっかりできるように現在取り組んでいる。

○松岡地域振興課長：「区民活動支援事業」の「国際交流支援事業」の日本語のボランティアについては、ボランティアを行っている団体や翻訳を行っている団体が計3団体あるが、一部については高齢化が進んでいることから、新たな人材発掘のための働きかけについて要望を受けている。そのこともあり、日本語のボランティアの育成について、横浜市国際交流協会と連携して昨年度に講座を行った。その結果、日本語支援のボランティア団体が、現在立ち上がっている。主にオンラインを使った支援の活動を行っている中、どのような外国人の方がどういうニーズがあるのか、という点をまだつかみかねているところがあるため、小学校などへヒアリングを行ったり、今後行う外国人の親子向けのイベントなどからニーズを探り、活動の展開を図っていくことを検討している。

○久保議員：瀬谷区は18区中それほど外国人が多い方ではないが、ベトナムや中国の方が多いということも聞いているため、それぞれの方に必要となる支援等をお願いしたい。

次に、「瀬谷の魅力発信・名所づくり事業」の「定住促進に向けた魅力PR事業」について、花博の開催に向けて瀬谷としての特色を生かしながら、定住促進のPRも行ってもらいたいが、何年かやっているこの事業の効果検証はできるのか、また成果があれば、伺いたい。

○堀内区政推進課長：昨年度は不動産情報サイトに、区の魅力をPRするページを掲載し、インターネット広告を使って発信をした。不動産情報サイトの総表示回数349万回に対し、この広告のクリック数は3,392回。また、不動産情報サイト内の瀬谷区PRページの総表示回数は、4,204回で、さらに実際の瀬谷区物件の検索画面クリック数は117回だった。その後の反応としては、瀬谷区物件の資料請求数は、前年にくらべ73.4%増加となったことから、瀬谷区に住んでみたいという関心の高まりへの効果はあったと考えている。

○久保議員：一定の効果があるということ、また資料請求もあるということで、引き続き拡充できるところはやってもらいたい。

最後に、「瀬谷の魅力発信・名所づくり事業」の「国際園芸博覧会機運醸成事業」について、花博の開催に係る機運は高まりつつも、市民の多くの方から、「まだなんとなくしかわからない」、「いつやるのだろうか」、とい

う声もあったりする。瀬谷区独自でこの機運醸成に取り組んでいくということも大事だと考える。今年度、どのような部分を拡充していくのか、伺いたい。

○堀内区政推進課長：今年度は区内の小学生を対象に、花の育成キットを配付し、国際園芸博覧会開催に向けた子どもたちの機運醸成を図っていきたいと考えている。また、子どもたちが育成した花を、公園などの多くの方の目に触れる場所に設置することで、地域全体の機運醸成を図る取組も進めてまいりたい。この花の種類は、ミニヒマワリで、7月頃に咲く予定となっている。その他としては、秋に市立保育園3園で「たねダンゴ」のワークショップを予定している他、国際園芸博覧会会場の最寄りにある中屋敷地区センターで、高齢者向けの講座として、花に親しんでもらうような内容の講座を予定している。また令和2年度に設立された、国際園芸博覧会瀬谷区推進協議会についても、昨年度はコロナの影響もあり書面での開催となっていたが、今年度は集合形式で開催し、区民の機運醸成や啓発事業の実施を検討する。

○花上議員：先ほど話が出ていた「瀬谷の魅力発信・名所づくり事業」の「アジサイ周辺の樹木剪定・伐採事業」について、地方に行くと、「きちんと伐採をしないものだから山が荒れ放題で、様々な問題が起きている」ということも聞かれるが、そもそも「伐採」という言葉を使ってはいけないということか。

○富永土木事務所長：事業内容として「伐採」を否定しているものではない。海軍道路で顕著であるが、木の根元にキノコが生えてしまったり、倒木の恐れがあるものについては、区民生活に影響があるため、伐採を含めた対応をしていくが、今回のアジサイについては、アジサイが健全に育成されているのであれば、必ずしも伐採を基本とするものではないと考えている。伐採を否定することでもなく、伐採を絶対しないということでもない。植物の健全育成が一番大事だと考えている。そういう視点で、維持管理をしてまいりたい。

○花上議員：最近では、瀬谷や上瀬谷という地名が、あちこちから聞かれるようになってきたが、そうなれば、瀬谷区がどのような区なのか、瀬谷の名所はどういうところなのか、など様々な関心が区内外から寄せられ、問い合わせやSNSを使って調べるが増えるのではないかと思うが、現状、SNSのアクセスが増えているのか伺いたい。

○堀内区政推進課長：瀬谷区の現在のSNSのフォロワー数は、ツイッター

一が約1,200人、インスタグラムが約1,590人となっている。昨今の今頃は、まだ、ツイッターが1,000人満たない状況で、インスタグラムも1,000人を少し超えるくらいであった。インスタグラムを使ってオープンガーデンのPRをしたこともあり、現在ではフォロワーも非常に増え、昨年に比べ約1.5倍となる約1,590人となっている。瀬谷区のSNSへの関心は高まっていると感じる。

○花上議員：まさに瀬谷に関心が高まりつつある状況ではないかと思う。それに対応して十分な情報を発信していくということは、極めて重要ではないか考える。区役所全体として、瀬谷区にアクセスする方々に対して、的確な対応を進めていかなければならないと思うが、区のことを伺いたい。

○植木区長：いろいろな形で情報を求める方が多くなってきていると感じる。以前であれば、区役所まで行かなければ手続きの方法ひとつわからない、ということがあったが、今はホームページを使ったり、実際の間合せもメールを使ったり、電話であったり、と様々な方法がとられるようになってきている。区役所の機能としては、各種手続きの問題と区としてのPRの問題の2つがあると思う。手続きの問題については、どこにいけば何がわかるのか的確にわかるように、ホームページだけではなく、窓口で勤務をしている職員も意識をもち、来庁者が違う窓口に行ったとしてもしっかりと対応ができるよう、それぞれの課で情報共有してまいりたい。あわせて、PRについては、イベント開催に合わせて問合せが増える傾向がある。そういったイベントについて、ホームページを何回もクリックしないと必要な情報を閲覧できないということがないように、先日のオープンガーデンの時も、瀬谷区のトップページから、すぐに情報にアクセスできるよう、その時々でページの構成を変えるということも対応している。一方で、瀬谷区の中で、まだPRができていない件も多くあると思う。例えば、一般的には七福神といわれているものが瀬谷区では八福神であるということなど、そういった特徴のあるところを区内だけでなく、区外や市外の方にも、興味を持ってもらえるようPRをする、ということは考えている。相鉄線が東急線と直通運転をするという契機をとらえ、昨年度には横浜駅以外の最寄りのジャンクションになる駅で、ことりっぷの配布ができる書店にご協力をいただいてPRを行った。遠方からだけではなく、関東近県の近くからでも瀬谷に遊びに来てもらえるような、そんなPRをこれからも考えてまいりたい。

○花上議員：相鉄線と東急線の直通運転が来年の3月に開始するということや、上瀬谷で花博が行われる、あるいはテーマパークがいよいよ具体化されるどころまできているなど、瀬谷という地名が発信されることにより、今まで東京方面に行くだけだったものが、東京方面から瀬谷に行ってみようかというような、そうした機運をつくっていくことが大変大事ではないかと考える。そういう意味では、瀬谷の魅力をどうやって創り上げていくのか、今話の出た八福神だけではだめだと思う。花博は6か月間のイベントであり、それ以外の瀬谷の魅力をいろいろな形で掘り起こしていくことが必要な時代に入ったのではないかと考える。これまでこの点について、あまり区民も目が向かなかったと思うが、横浜の西の玄関口の瀬谷区に関心が高まってきた中、区役所全体で、瀬谷区民とともに、新しい魅力づくり、新しい名所づくりを考えていくことが大変大事ではないかと考える。そうした認識をまず持つことが必要だと思うが、考えを伺いたい。

○植木区長：いろいろな世代の方が、直接来ることによって楽しめる場所というのを、区役所だけでなくいろいろな年代の方を交えて、掘り起こしをしたい。特に、今回ことりっぷをつくるときに思ったことだが、年代により、行ってみたいお店、興味がある場所というのは異なっている。いろいろな年代層に合わせて、どんなところに行ってみたいのか、どんなところをPRしていけばよいのか、ということ意識してこれからしっかりと考えてまいりたい。

○花上議員：新しい時代に入ってきたという認識をもち、皆で瀬谷の魅力を掘り起こしていくという取組が極めて重要ではないかと思う。我々議員としても、当然そのような視点で、いろいろなアイデアを出していかなければならず、地域の方とともに、新しい瀬谷区を創る活性化ビジョンを作っていく必要があると思う。区役所と一緒に進めていきたいと考える。

次に、具体的に花博開催まで5年を切り、テーマパークの話や、物流センターに接続する新たな東名高速道路のインターチェンジをつくる話等、次々と構想が明らかになってきた中、これから瀬谷にいろいろな方が来るという状況になるため、区役所としては治安防犯対策というのが今後極めて重要になると思うが、この件について、瀬谷警察署と何らかの連携をとっているのか伺いたい。

○植木区長：今後來街者が増えるということについての調整は、まだ具体的に始めているところではないが、もとより瀬谷警察署と区役所は常に連

携をしながら、区民の防犯啓発を行っているため、5年後に向けてより連携を深めてまいりたい。

○花上議員：治安防犯対策は犯罪が起きてから取り組むのではなく、先手先手を打っていかなければならないと思う。予防のための取組を区役所としてもしっかりと目配り気配りしてもらいたい。そのためには、瀬谷警察署との連携は今後大変重要なため、ぜひこの点をふまえて考えてもらいたい。

次に、瀬谷駅南口のバスターミナルについて、時間帯によりバスを待つ人が多く並ぶことがあるのだが、ベンチがないため皆立って待っている状況であり、ベンチをつくってもらえないかという陳情が寄せられている。瀬谷駅北口の方はベンチがあるが、南口にはベンチがない。これから暑くなってくるため、考えを伺いたい。

○井田土木事務所副所長：バス停のベンチについては、道路の占用物としてバス事業者が設置しているものであるが、バス事業者と調整してまいりたい。

○花上議員：コロナについて、感染者が減ってきていることは喜ばしい限りであり、今後は、Go To Eat 等、これまで実施が見送られてきたようなことが次々と解禁される状況になってきた。今後も4回目の接種が行われれば、さらに感染者が減ると思いつつ、外国からの来訪者もかなり増えてくる話もあり、コロナ対策は油断するわけにはいかずしっかり進めていかなければいけないと思うが、福祉保健センターと医師会・薬剤師会との連携はうまくいっているのか。

○松永福祉保健センター長：医師会、歯科医師会、薬剤師会とは連絡会を通じて今後も話をしてまいりたい。特に医師会には、見守り支援事業の協力をいただいております、引き続き連携してまいりたい。

○花上議員：数日前に高齢者施設で複数の感染者が出たという報告もあり、油断するわけにはいかないと思う。世の中全体が感染者が減ったことでかなり気が緩んできている感じがするが、気が緩むことでまた感染者が増えるということがあってはならず、対策はしっかり進めてもらいたい。

次に、学校のコロナ対策について、新しい取組が行われているのかも含めコロナ対策の実態を伺いたい。

○小川学校連携・こども担当課長：学校のコロナ対策については、2月のオミクロン株以降、学級閉鎖の基準等が変わっている。瀬谷区内では、3月中旬以降は、学級閉鎖は生じていないが、少数の陽性者は発生している

という状況であり、学校においては、引き続き感染防止対策をしながら行事等を進めているところである。また、国から、屋外での活動については十分な距離を取れる場合、熱中症対策も含めてマスクは必ずしも着用しなくてよいとなったことを踏まえ、活動内容によっては現状の対策を見直す動きがあるため、学校においてもそれに沿って対応をしている状況である。

○久保議員：さきほどの瀬谷駅南口のバスターミナルのベンチの件については、都市整備局にも話をしているところであるが、私からも要望をさせていただきたい。

○花上議員：海軍道路の桜について、地元の方と桜の協議会をつくってきたという報告が市会にあったが、どういう組織なのか。

○堀内区政推進課長：国際園芸博覧会を契機に老木化が進む海軍道路のあり方を検討していくという、桜並木の懇談会が立ち上がった。メンバーは、連合町内会長、沿道の関係者の他に、公募の方が5名入っており、これまでに6回、意見交換を行っている。どういった桜を植えていくのか等、地元の方の意見を聞きながら都市整備局が中心となって進めている。

○川口議員：瀬谷町地内の道路補修について、この道は、保土ヶ谷バイパスに向かう車が使う道かと思うが。改めて工事期間と工事時間を教えてもらいたい。

○井田土木事務所副所長：今月から工事が始まる予定だが、詳細は確認して別途資料を提供する。

○久保議員：環状4号線の道路補修に関連して、下瀬谷坂上の交差点が瀬谷区側から渋滞することについても、渋滞解消の改善をお願いしたい。

次に阿久和西地区の浸水対策について、地域からも水が上がると相談を受けているところだが、工事が若干遅れているような気がする。現状の進捗について伺いたい。

○富永土木事務所長：昨年度発注準備をしていたものが不調となり、現在設計内容を変更して再発注の準備をしているところと、所管する環境創造局から聞いている。今年度は工事ができるよう対応しているとのことで、時期がわかり次第、情報提供する。

○久保議員：台風が来る前に対応できるようお願いしたい。

○花上議員：ひとつお礼を申し上げたいのが、土木事務所に今まで陳情していた和泉川のプロムナードについて、舗装が完成し、地域の方が非常に喜び感謝している。まだすべての工事が済んでいるわけではないため、傷

	んだところについては引き続き対応をお願いしたい。
備 考	